

災害から復興へ ～地域を全国のYEGの力で～

第1部 講演・ビジネス復興事業とは
第2部 グループディスカッション

日時：2019年11月15日（金）
開始13:00（受付12:00～）

場所：秋田ビューホテル
四階飛翔

〒010-0001
秋田県秋田市中通2-6-1
TEL：018-832-1111



会場WEB

事業目的

全国に等しくリスクを抱えている参加者全員が、素早くビジネスを再開させ、復興できる為の知識や行動力を学び新たな事業の発展に繋げる。

会費 7,000円

定員 250名

参加申込は「YEG登録システム」を検索し、参加者本人または単会事務局からの登録にてお願いします。

お問い合わせ 日本商工会議所青年部ビジネス活性化委員会
副委員長 大田豊久
E-mail:info@daiho-denki.com

主催：日本商工会議所青年部

START

講師紹介



菅原 渉 氏

現職：株式会社菅原工業 代表取締役専務

YEG所属：気仙沼商工会議所青年部
宮城県商工会議所青年部連合会
代表理事

震災後の取り組み：

震災が起き、津波の影響を受けて社屋は倒壊し、残されたのはダンブカー1台の状況の中、

3日後には震災復旧のために活動（瓦礫撤去）を開始。最初の数ヶ月は自衛隊と協力しあって、24時間の交代体制で取り組み、その後安否確認が取れた企業とも協力し、約2年間瓦礫の撤去に携わる。

その後、事業は災害復旧工事へと展開。防波堤の建設をはじめ、順調に気仙沼の街の事業を受注し、地元を象徴する内湾地区の造成・道路工事にも関わる。

復興事業が落ち着く今後の取り組み：

① 街全体の道路を総合的に管理するような仕組みづくり

② 海外展開

・復興工事をしている中でどうしても人手が足りなくなり、気仙沼と漁業で交流のあった

インドネシアから技能研修生を受け入れる事に決定。2015年には現地に合弁会社を

設立し、技能研修性が3年間で習得した技術力の輸出を推進中。更には、気仙沼に

インドネシアのモスクと料理店をオープン。



藤村 栄治 氏

現職：気仙沼信用金庫
復興支援部 執行役員 部長

震災後の取り組み：

被災3日後から市内2店舗で営業を再開。仮払いや預金通帳の再発行に応じた。職員は着の身着のまま、避難所から歩いて担当業務に精励。

「とにかく問題だったのは、本人確認でした。『顔見知りの職員はいませんか』とまずお聞きする。その職員がお客さまを確認して払い戻すという原始的な方法しかなく、時間もかかりました。

それでも混乱はありませんでした。改めてお客さまとのつながりの強さを実感しました」

さらにお客さまに寄り添うべく、法人営業推進チームを母体に2012年4月には復興支援課を

発足。他方、これまで接点の少なかったNPOとも連携し「三陸復興トモダチ基金」を創設して、

起業、再雇用の助成、利子補給融資を開始。また国のグループ化補助金取得への協力のみならず、全国から旅行誘致、地元産品のカタログ販売など、取引の有無に拘りなく、地域復興へ

きめ細かく支援を進めた。



藤村 さやか 氏

現職：染色工房「インディゴ気仙沼」代表

略歴：

アメリカ生まれ。津波被害を受けた宮城県気仙沼市を訪れ、ご主人と出会う。結婚・出産を機に東京から移住。2015年、乳飲み子を抱え働くのに困り、同じ境遇の女性らと

「気仙沼＝海＝ブルー」がイメージしやすく、子どもをおんぶしながらでも空いた手で仕事ができる、染色工房を立ち上げる。100%天然インディゴによる染色受託やオリジナル商品の製造販売。新規事業として世界的にも希少な染料植物パステルにアジアで初めて着手し、ファッション業界から注目を浴びる。

【開催趣旨】

昨今、日本全土に災害・天災が全国各地で発生しており、災害発生と同時に日本の経済状況も目まぐるしいほど変化しております。我々中小企業も災害が発生すれば大きな打撃となり、損害や負債という形で返って来るのが現状です。しかし、これを大きなチャンスと捉え、企業改革、新規事業の着手等、やり方を考え運命を変えた経営者が多くいます。

その実体験を聞き、災害を乗り越え小さな努力からの成長を勉強させて頂く機会とします。

【タイムスケジュール】

- 12:00~13:00 受付
- 13:00~13:20 開会セレモニー
- 13:20~14:30 プログラム1部
- 14:30~14:45 休憩
- 14:45~16:30 プログラム2部 (チームディスカッション)
- 16:30~17:30 プログラム発表
- 17:30~17:40 閉会セレモニー
- 18:00~20:00 交流会